

## 「第3次神奈川県食育推進計画」の目標値と考え方について

基本方針	指標	計画策定時 (29年度)	目標値 (34年度)	国目標値 (32年度)	考え方
健康な体をつくる	① 主食、主菜、副菜を 組み合わせた食事を 心がけている県民の 割合	73.6% (29年)	80%以上	70%以上	国の目標設定（10%程度増） を参考にし、本県の現状値 から10%程度の増加を目指 す。
	② 朝食を欠食する県 民の割合 ア（小学5年生） イ（中学2年生）	小5 4.6% 中2 8.8% (29年)	0%に近づける	子供 0%	国の目標値は「0%」である が、全くなくすることは現実 的ではなく努力目標として 「0%に近づける」を継続す る。
	ウ 男性 エ 女性 (15～19歳) (20～29歳) (30～39歳)	男性 女性 15.4% 15.6% 38.8% 27.3% 30.3% 21.6% (25-27年)	15%以下	15%以下	20歳代の朝食欠食率は増加 傾向にあり、国の重点課題 にもあげられていることか ら、国と同様の目標値を継 続する。
	③ 一日当たりの平均 野菜摂取量	273.1g (25-27年)	350g以上	—	「かながわ健康プラン21 (第2次)」の目標に準じて 350g以上を継続する。
	④ 一日当たりの平均 食塩摂取量	9.8g (25-27年)	8g未満	—	「かながわ健康プラン21 (第2次)」の目標に準じて 8g未満を継続する。
	[新規] ⑤ ゆっくりよく噛ん で食べる県民の割合	42.8% (29年)	50%以上	55%以上	国の目標設定（現状値49.2% →目標値55%）を参考にし、 本県の現状値から10%程度 の増加を目指す。
	⑥ 食育の推進に関わ るボランティアの数	7,712人 (29年)	8,300人以上	37万人以上	国の目標設定（現状値34.4万 人→目標値37万人）を参考 にし、本県の現状値から目 標値を設定 7,712×37/34.4=8,294
	[新規] ⑦ 就寝前2時間以内に 食事をとらないよう 気をつけている県民 の割合	62.2% (29年)	70%以上	—	現状の10%程度の増加を目 指し70%とする。
	⑧ 食育に関心を持っ ている県民の割合	74.5% (29年)	90%以上	90%以上	直近5年間のうち28年の 82.6%が最高値であり、今 後も努力目標として目標値 を継続する。
	⑨ 朝食・夕食を家族と 食べている、又は、一 人暮らしの方で昼食・ 夕食を仲間など複数 で食べている「共食」 の回数	[家族] 週10回 [単身] 週3回 (29年)	[家族] 週11回 [単身] 週4回	[家族] 週11回	国の目標設定（現状値9.7回 →目標値11回）を参考に し、本県の現状値から10% 程度の増加を目指す。

基本方針	指標	計画策定時 (29年度)	目標値 (34年度)	国目標値 (32年度)	考え方
豊かな心を育む	⑩ 公立小・中学校の学校給食において地場産物を使用する割合	17.3% (28年)	30%以上	30%以上	本県の現状値は国に比べて低い状況であることから、まずは国の目標値に到達することを目指し、今後も努力目標として目標値を継続する。
	⑪ 学校給食の残食率(野菜)の減少(公立)	5.3% (28年)	5%以下	—	直近5年間で順調に改善されてきたが、目標達成に至らなかったため、今後も目標値を継続する。
	⑫ 食事のマナーを正しくできていると思う県民の割合	75.2% (29年)	90%以上	—	直近5年間のうち28年の77.3%が最高値であり、今後も努力目標として目標値を継続する。
食への理解を深め 神奈川の食に親しむ	[新規] ⑬ 農林水産業の体験や伝統ある食文化を伝えていく機会や場があることに満足している県民の割合	5.5% (25-29年)	6%以上	—	直近5年間の現状値の平均値5.48%に対して10%程度の増加を目指す。
	[新規] ⑭ 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられることに満足している県民の割合	24.9% (25-29年)	28%以上	—	直近5年間の現状値の平均値24.9%に対して10%程度の増加を目指す。
	[新規] ⑮ 食べ物を無駄にしないよう気をつけている県民の割合	91.2% (29年)	96%以上	80%以上	国の目標設定を参考とすると(67.4%→80%)10%程度の増となるが、県の直近2年分の現状値が90%、91.2%と高く、100%とすることは現実的ではないことから、2年の増加率(1.2%)を用い、今後の5年分として6%程度増の96%を目指す。
	⑯ 食品の安全性に関する知識があると思う県民の割合	65.1% (29年)	90%以上	80%以上	直近5年間のうち26年の69.7%が最高値であり、今後も努力目標として目標値を継続する。